

京都の福祉

シェアセ運ぶ情報誌

577
2019年
4月

Contents

- 社会をひとつにつなぐ、スポーツの力
～パラ・パワーリフティングを通して
インクルーシブ社会を目指す～
- 職場の人材育成を支援する
スーパーバイザー養成研修
第7回 きょうと地域福祉活動実践交流会
夢中！ 熱中！ ふくしびと



もえくさ ちようど新年度の計画づくりの最中のこと、本会の研修会でお世話になった尾野寛明さん（エコカレッジ代表）のレジュメに目がとまった。こんな内容だった▼山積する地域課題↓あれが大変だ、これが大変だ↓じゃあ課題を把握しよう！計画をつくらう！↓企画ができた！補助金取れた！（この辺で何かがおかしい）↓で、誰がやる？↓みんな下を向く（だってみんな忙しい）↓目的の曖昧なイベントに苦しみ▼こうならないために、尾野さんは、課題を持ち寄るのではなく、「こうしたい」を持ち寄ることを薦めている▼ところで、「こうしたい」を持ち寄るためには、一人一人が自分の「こうしたい」を持つことができ、安心して話せる環境が必要だ▼グーグル社の研究によると、意見を否定されたりしない心理的安全性が高く、メンバーの発言量が同じチームほど仕事がつましくいくという。また、『ゆつくり、いそげ』の著者影山知明さんは「自分のありのままをさらけ出しても、受け止めてもらえるという安心感があれば、人の中に眠るアイデアや想像力はどんどん引き出されていく」と述べている▼違いを認め合い、安心して意見を言える関係が、生き生きとした仕事につながるということだ。その関係づくりは、まずは自分がメンバーの思いを受け止めるようになること、つまり「自分が変わる」ことから始まるのではないだろうか▼さあ、新年度。本会では第5次中期計画を策定する。みんなが「こうしたい」を持ち寄ることができるよう、関係づくりも大切にしたいと思っている。

（下）